

我が署における若手職員の人材育成への取組

下北森林管理署 一般職員 ○平門由佳子 ○中塔花梨

1 はじめに

下北森林管理署では若い世代の人数が大変多く、職員の約3割にあたる10名が採用5年目までのOJT対象者となっています。これは、東北局管内で最も多い人数です。そのため、業務に当たる上での知識不足や業務経験の少なさが課題となっています。OJT対象者のほとんどは署内勤務となっており、各担当業務で即戦力として日常業務を行いながら、効率的に署で計画したOJTに取り組む必要があります。

令和3年度に実施したOJT等の取り組みを振り返り、今後の我が署の人材育成の課題を職場全体で考えていきました。

2 取組・研究方法

(1) 方法

各OJTの取り組みについて、①OJT対象者、②OJTを行った職員、③県の若手職員にそれぞれアンケート調査を実施しました。

アンケートの内容は以下のとおりです。

①OJT対象者

良かった点や理解度、今後の要望などについて聞き取りを行いました。

②OJTを行った職員

OJTで工夫したことや苦労したこと、今後の改善点などについて聞き取りを行いました。

③県の若手職員

各イベントへ出席した感想と、今後の要望等の聞き取りを行いました。

(2) OJT実施内容

表1にOJTの実施内容をまとめました。令和3年度は、6月から12月にかけて大きく分け8分野のOJTが開催されました。分野によっては現場での実習だけでなく、内業として設計図の作製なども行いました。また、各分野異なる内容で複数回実施されました。

イベント関係では、事業体や地方自治体の担当者を巻き込んでの勉強会や見学会を開催しました。

表 1 : OJT 実施内容

分野	内容	時期
販売関係	・ 検知業務 ・ 県森連フェア等の見学	7月～12月
測定関係	・ 境界巡検・予備調査	7月
土木関係	・ コンクリートの打設現場見学 ・ 災害復旧箇所での測量	9月～10月
治山関係	・ 工事予定箇所の測量 ・ 設計図の作製 ・ 工事完成箇所の見学	7月～12月
育成関係	・ 各事業終了後の検査の実施	6月
収穫関係	・ ヒバ実験林における択伐の測樹 ・ 支障木調査	11月
経理関係	・ 旅費に関する勉強会 ・ 物品に関する勉強会	6月～8月
イベント関係	・ スギ採材勉強会 ・ Wボード活用事例紹介 ・ 山もつとジョージの見学会 ・ ドローン講習会	6月～7月

表 1 から抜粋して 6 つ紹介します。

① 販売関係

検知業務の OJT では、実際に検尺等の道具を使用して径級や長級測定を体験しました。県森連フェアでは、木材の値段を予想しながら見学することで、高品質な木材の特徴等を知ることができました。

② 土木関係

コンクリート打設の見学では、写真 1 のようにスランプ試験の概要説明を受けた後に、打設現場を見学しました。豪雨で被害を受けた災害復旧箇所の測量では、より実践的な経験ができました。

③ 治山関係

治山の OJT は、座学として治山事業の意義、外業の測量、内業の設計、工事施工中の見学、完成検査の見学と業務の時系列順で開催されました。内業の設計では、縦断図を手書きで作製し、CAD の操作等も行いました。外業の測量や完成検査の見学では、トランシット等の機械に触れて測定を行いました。

④ 経理関係

経理の OJT は、入庁 4 年目の OJT 対象者である経理事務担当者が逆に講師を務める形で開催されました。物品購入と旅費についての手順や方法等詳細な説明を受けました。また、OJT 対象者以外の職員も参加しました。

⑤ スギの採材勉強会

スギの採材勉強会には、下北署、地方自治体の職員、事業体など計 40 名以上が参

加しました。内容は、採材から巻立までの基本的な考え方として需要の動向や需要者のニーズに合った生産、はい積の注意点などの説明が行われました。また、スギ素材の採材、仕分けとして変形や曲がりなど欠点のある材の見分け方を学び、プロセッサが4m材にカットしている様子を見学し、材が規格どおりにカットされているかの確認を行いました。

⑥ 樹脂製軽量敷板（Wボード）活用事例紹介

スギの採材勉強会と同様に40名程度が参加しました。内容は、Wボードの特徴として、敷鉄板・ゴムマット等の従来の路面養生製品と比較して、人力で積込・運搬・設置ができるほど軽量で、省力化に有効であること、柔軟性・耐久性に優れていること等の説明が行われ、実際にWボードを使用した現場を見学しました。



写真1：土木のOJT（スランプ試験の説明を受けている様子）

3 結果

各担当業務と併せて無理なくOJTを開催することができました。

また、各イベントや勉強会に関しては、事業者や地方自治体の担当者も交えて様々な視点から学ぶことができました。

(1) OJT対象者、(2) OJTを行った職員、(3) 県の若手職員それぞれへの聞き取りの結果は、以下のとおりです。

(1) OJT 対象者

良かった点としては、OJT を通して普段の業務の知識・技能の向上につながったほか、自分の担当業務以外の仕事も知ることで自らの仕事の位置づけを理解することにもつながったとのことです。また、旅費システムなど誤った操作をしていたことに気づき、今後の使い方を見直す良い機会となったという意見もありました。その他にも、職員同士や、事業体・地方自治体の方との交流を通して様々な考え方を知ることができたという意見がありました。

一方で、今後の要望としては、予習のために専門用語の解説が記載されている関係資料等を事前に送付してもらえると良いという声や、振り返りとしてレポートの作成を行っても良いのではないかという意見もありました。また、旅費の事務処理に関する知識など、普段の業務で頻繁に使われるものについては、早い段階で知りたかったという声がありました。

(2) OJT を行った職員

工夫したことは、OJT 対象者の参加率を上げるためにいくつか候補日を設けて複数回実施したことや、若手職員以外も参加可能とすることで、業務に対する職員全体の理解度を高め、業務効率を上げることができたという声があがりました。さらに、若い職員の関心を高めるため、丸太検知くんやドローンなど、新しい技術を積極的に紹介した、という工夫もあげられました。

一方で苦労したことは、対象者の中でも採用1年目から5年目までと幅広く理解度のばらつきが大きかったことや、マニュアル通りにはいかない現場での判断基準を教えるのが難しかったという意見などがありました。また、現場での OJT を重視したため天候や移動時の安全確認、山の歩き方など心配事が多々あったという意見もありました。

今後の改善点としては、専門用語や道具の使い方、図面の見方など、基本的な部分が身につけていないため、いきなり現場での実習を行うのではなく、最初に座学で基礎的知識や調査手順の確認を行う必要があるのではないか、という意見がありました。

(3) 県の若手職員

スギ採材勉強会やWボード活用事例紹介では、写真2のように現地で実際に見学しながら説明をしてもらえたので分かりやすく、大変業務の参考になったとのことです。

下北署の OJT 対象者と同じように、県の若手職員に対しても、イベントを通して、業務の知識・技能の向上に貢献していたことが分かりました。

一方で、限られた時間の中での実施であるため、もっと説明を聞きたかったという意見や、長期的に学びたいので継続的な勉強会を実施してほしいという声があがりました。

また、国有林における材の搬出計画の考え方など、幅広い分野での勉強会を実施してもらいたいという要望がありました。

今後も、県職員や事業体を巻き込んだイベントや勉強会の継続した開催を検討する必要があると考えます。



写真2：スギ採材勉強会（曲がりなど欠点のある材を見学している様子）

4 考察・結論

今回、OJTに関するアンケート調査を実施した結果、我が署においては、若手職員の知識や技術の向上ということだけでなく、業務の効率化やベテラン職員の業務の見直し、職員同士のコミュニケーションの促進、外部との交流など、様々な意義を持っていることが明らかになりました。

一方で、今後の取り組みとして、旅費や物品のように、全職員が実務で使うようなものは、なるべく早い段階で開催することが効果的であることや、収穫調査等、業務内容によっては、いきなり現場での実習を行うのではなく、最初に座学で基礎的知識や調査手順の確認を行うことも検討する必要があるなどの課題も見えてきました。

下北森林管理署では、OJT該当者の人数が多いため、一人一人の希望に添ったものとなるように注意しながら、今後も継続したOJT等の実施が必要であると考えます。